

企業会計決算や景観づくりなどについて議論

平成19年第3回定例会を、9月27日から10月19日まで23日間の日程で開催し、「三重県景観づくり条例案」ほか12件の議案、水道事業ほか3件の企業会計決算にかかる認定議案等を審議しました。

9月27日の開会日には、議案16件を上程し、知事から議案の提案説明が行われました。10月2日、4日、9日には一般質問があり、13名の議員が質問に立ちました。

会期中、各常任委員会を開催し、議案や請願の審査などを行いました。

閉会日の19日には、開会日に上程した知事提出議案12件を原案どおり可決したほか、4件の企業会計決算を認定しました。さらに請願10件を採択し、追加上程した土地利用審査会委員の選任同意議案に同意しました。

また、「平成18年度三重県歳入歳出決算」ほか11件の決算認定議案を上程し、予算決算常任委員会に付託するとともに閉会中の継続審査としたほか、意見書案10件を可決し閉会しました。

平成19年
9月27日～10月19日



文中の傍線部分については、5ページに用語解説を掲載しております。

一般質問

三重県の景観づくり

水谷 隆 議員
(自民 無所属議員団 / いなべ市・員弁郡選出)

問 ① 今定例会に上程された「三重県景観づくり条例案」には、景観づくりに関する施策を総合的かつ計画的に推進するとあります。

御遷宮に向けて「美しく国おこし・三重」に取り組む知事の三重の景観づくりに対する想いや意気込みについて、また、景観づくりを進める上で、電線や電柱の地中化をどのように進めていくのかお伺いします。

答 良好な景観は豊かな心や感性を育み、地域の魅力・元気の源と考えます。景観の保全や創造に継続的に取り組み、次世代に引き継ぎたいと考えています。

また、電線や電柱の地中化は、都市景観の向上や安全で円滑な通行空間の確保のため有効であり、街路事業などと一体となった整備を計画的に進めます。

その他の質問事項

○みえ地域コミュニティ

ティ応援ファンド

ほか



桑名市八間通り

観光振興と博物館誘致

奥野 英介 議員
(自民党青雲会県議団 / 伊勢市選出)

問 現在三重県では、博物館の建て替えの検討が行われています。

伊勢市には神宮徴古館・農業館・美術館があり、年間6万5千人を超える観光客が訪れます。また、隣接する明和町には斎宮歴史博物館があります。

新博物館建設は、これらの施設との連携と観光誘客により、三重県の文化をより多くの人に知ってもらえる伊勢市が適地としますが、いかがでしょうか。



答 現在三重県文化審議会

の「新博物館のあり方部会」では県立博物館に求められる性格や役割、機能等について審議しており、立地場所については今後の検討項目となっています。

この検討内容をもとに、文化振興の重要な拠点の一つとして、最も適切な立地場所を選定していきたいと考えています。

その他の質問事項

○市町村合併のその後 ほか